

Course number		G-LAS13 80005 LJ90						
Course title (and course title in English)	疫学Ⅰ（疫学入門） Epidemiology I			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO			
					Part-time Lecturer,SATO TOSIYA			
					Part-time Lecturer,KAWAMURA TAKASHI Graduate School of Medicine Associate Professor,TABARA YASUHARU			
					Part-time Lecturer,MIURA KATSUYUKI			
					Part-time Lecturer,ISHIZAKI TATSURO			
Group	Interdisciplinary Graduate Courses			Field(Classification)	Health and Medicine			
Language of instruction	Japanese			Old group			Number of credits	1
Hours	15	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive Fridays in April 12-May 31		Target year	Graduate students		Eligible students	For all majors	
(Students of Graduate School of Medicine cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)								
【Overview and purpose of the course】								
<p>本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。 臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。 原則として金曜3限ですが、3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります。</p> <p>【大学院横断教育の概要・目的】 人間集団における健康・疾病に関する事象の因果関係を明らかにする疫学研究は、根拠に基づく医療（evidence-based medicine: EBM）、そして現代医学の基盤科学として認識されている。本講義では、理系文系問わず、健康・医療の問題に関心を持つ受講生に疫学の入門的知識を講義する。</p>								
【Course objectives】								
<p>疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。 疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。</p>								
【Course schedule and contents】								
第1回	4月12日（3限）	イントロダクション（1）（中山）						
第2回	4月12日（4限）	イントロダクション（2）（佐藤）						
第3回	4月19日（3限）	コホート研究・症例対照研究（中山）						
第4回	4月26日（3限）	介入研究（川村）						
第5回	4月26日（4限）	対象者の追跡（川村）						
第6回	5月10日（3限）	疫学をめぐる最近の話題（中山）						
第7回	5月10日（4限）	記述疫学・高齢者の疫学研究（石崎）						
第8回	5月24日（3限）	視聴覚教材「大いなる航海」（中山）						
	5月31日（3限）	テスト						
----- Continue to 疫学Ⅰ（疫学入門）(2) -----								

疫学Ⅰ（疫学入門）(2)

特別講義予定あり（三浦・田原）

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

テスト（８０％）、毎回の小レポート提出（２０％）

[Textbooks]

講義資料は配布

[References, etc.]

（References, etc.）

川村孝著『エビデンスをつくる』（医学書院）

中山健夫・津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』（ライフサイエンス出版）

矢野栄二・橋本英樹監訳『ロスマンの疫学』（篠原出版新社）

厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向』（厚生統計協会）

ロドルフォ・サラッチ著『読んでわかる！ 疫学入門』（大修館書店）

[Study outside of class (preparation and review)]

予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。

[Other information (office hours, etc.)]

症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。

本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。

留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。

特別講義の予定は初回の講義で説明します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。